

百周年以降の卒業生

小学校の思い出

昭和六十三年度卒 柴北下

渋谷 志穂

私の家から長谷小学校までは、距離にして約四キロ、時間にして約一時間。入学してから卒業するまでよく通ったものだと、自分のことですが感心します。

一年生の時には隣の家のお姉ちゃんが一緒に登校してくれた思い出があります。

一度だけだと思えますが、学校に行きたくないと駄々をこねたことがあり、お母さんやお姉ちゃんを困らせたことがありました。その理由はもう覚えていませんが、朝、家の近くの橋の袂で私を待っていてくれたお姉ちゃんたちの姿を覚えています。

当時の私には言えませんでした、あの時は待っていてくれてありがとうございました。

他にも、何年生だったか正確に覚えていないのですが、朝、雨の中を集団登校した事がありました。その中で、やんちゃな男の子がいて、上級生によく叱られていました。

そんな男の子や下級生を、しっかりとめあげる上級生の苦労なんて、当時の私は全く理解していなかったので、迷惑をたくさんかけたと思います。当時、私たち下級生の面倒をみてくれた方々に感謝したいと思います。

冬の思い出では、今では珍しいですが、私が一、二年生の頃、雪が積もっていました。家では、父が小さなカマクラを造ってくれました。小学

校の校庭では、雪合戦をした思い出が残っています。

ものすごく曖昧な思い出ですが、二グループに分かれて、雪壁があったようななかったような、とにかく楽しかったです。その後は、雪の量が減ってしまったので、雪の中で遊んだ記憶はあれが最後だと思えます。

長谷小学校は、自然の中にある学校です。

春の通学路には、田植え前の田んぼ一面に咲くレンゲがありました。よく蜜を吸っていたものです。野いちごを食べたり、椿の蜜を吸ってみたり、道端で食べられる植物は何でも口にしていたような、少し恥かしい思い出がよみがえってきました。

とにかく、自然の中でたくさん遊びました。

こうして書かせてもらうと、記憶は鮮明ではないのですが、いろいろなことが懐しく思えてきました。

またいつか、長谷小学校が復活し、子供たちの姿が戻ってくることを楽しみにしています。

閉校によせて

平成元年度卒 柴北上

橋爪 史子(旧姓 後藤)

母校が閉校になると聞いて寂しく思うのは、卒業してからの時間がずいぶん経ったということでしょうか。

一九八四年四月に入学してから一九九〇年三月に卒業するまで、何人かの友達の出入りがあり、担任もかわりましたが、今でも名前やそれぞれの

思い出がうかんできます。

入学した時は全てが新鮮で、遊びながらの下校は親を心配させたものです。授業もそっこのけで午前中いっぱい川遊びをしたり、社会見学で友達の家を蚕を見に行ったり、当時から児童の数は少なく、運動会では毎年一人ひとりが何種目も活躍したものです。みんなの仲があまりにも良くて、上級生に反発してみたり、はしゃぎすぎたり、怒られるようなこともたくさんしましたが、今となってはムチで叩かれたこともいい思い出です。

古かった講堂が新しく体育館に建てかわり、四年生の時には開校百周年を迎えました。その時閉じたタイムカプセルをあけたのが二十年を経た二年前。当時と変わらぬ担任や友達と過した時間は、故郷を離れて暮らす者にとって、大変貴重なものでした。

いろいろな出来事があり、たくさんの児童がそれぞれの六年間を過した学校からは、もう、子供達の声が聞こえてくることもなくなってしまう。せめて、私達の思い出の詰まった校舎を、有効に生かしていた、だけのことを祈ります。

母校

平成二年度卒 山内

後藤 淳一

今年に入り、長谷小学校が閉校になると聞き、とても驚きました。私が卒業したのは今から約二十年ほど前になります。まだその当時は比較的生徒の数も多く、にぎやかな学校生活を送っていました。楽しい思い出はた

くさんありますが、特に記憶に残っているのはグラウンドでやった少年野球です。授業が終わって放課後になると、急いでユニホームに着替えて、グラウンドにとびだし、ランニングをしたことを思い出します。人数は少なかったのですが、四年生から六年生までの混合チームで、キャッチボールをしたり、バッティングや守備の練習をしたりして汗を流しました。それぞれ学年は違っていました。人数が少なかったこともあり、一人ひとりの距離が近く、とても親しみのあるチームでした。試合では一度も優勝することができなかったのですが、今となってはそれも良い思い出です。

私がその他に特に記憶に残っているのは、登下校です。仲の良い友達とたわいもない話をしながら歩いたことを思い出します。四季折々に辺りの風景や育つ草花を見るのも楽しみのひとつでした。

二十年経った今、振り返ってみると、やはり長谷小学校に通えてとても幸せに思います。できれば、この自分の育った環境を未来の子供たちにも残してあげたいと思うのは私だけではないはずです。

最後に、今回このような機会をいただき、懐しい小学校をふり返り、思い出すことができるとも温かい気持ちになりました。ありがとうございます。



長谷幼稚園・小学校への道のり

平成三年度卒 畑ヶ川

原山 亜季

毎朝、姉や近所の友達と一緒に声かけしながら登校していた長谷幼稚園・小学校の道のり。登校時は、いろんな誘惑との戦いで目に映る物は全てに興味を持ち、寄り道ばかり。木の実があれば制帽が袋になり、疲れたらランドセルが枕になり、道路に寝転んだりしていました。

もちろん、登校時には遅刻しないようにと姉達に引つ張られて行くというスタイルの毎日でした。

冬の朝は寒く、当時は裸足運動も行っており、防寒というような服装ではなかったため、寒すぎて暖をとろうと泣きながら走る事もありました。

ようやく教室に到着すると、ストープをつけて出迎えてくれる先生達が母の様な存在であり、『おはよう』の挨拶を交わすと同時に心も体も温まるホッとする瞬間でした。

遠方からの通学は不便に思う事もありましたが、他の誰よりも私は姉や友達と横に並んで歩く時間が長かったのだと今では感じています。

これが私の八年間の道のりであり、これからもずっと長谷幼



稚園・長谷小学校は私にとって大切な道のりです。

そして、友達、先生、地域の方々に出会えたのも長谷幼稚園・長谷小学校のおかげだと感謝しています。

長谷小学校閉校にあたり

平成四年度卒 柴北上

赤峰 洋子

卒業して十七年という歳月が流れました。六年間の思い出は長い時間が経過した今も、あの頃の記憶が鮮明に蘇ります。

幼稚園が違った私は、どきどきしながら小学校へ入学しました。知っている友達が少なく不安もありました。学校までの道のりは、幼い私には遠くて厳しいものでした。ゆっくり歩いて片道1時間。入学前に母と予行練習として歩いて行った事を覚えています。いつの間にか友達ができ、いつの間にか慣れていった道。優しく時に厳しい先生方や、個性的な同級生に囲まれ、楽しい六年間でした。

在学中に校舎の改装があり、現在の綺麗な教室になっていますが、私の入学当時は二階建ての校舎に屋上ベランダと六年生の教室があるというものでした。私はあの古くて使い勝手の悪い校舎が好きでした。手洗い場が付いていた教室や、暗くて光が入らない教室もありました。特に好きだったのは、木の廊下です。掃除の時間は、みんな雑巾がけ競争をしたことを覚えています。歩くとミシミシと音のする廊下が懐かしいです。

全校生徒を合わせても一〇〇人前後という環境で、夏は毎日のように

プールに入ったり、お弁当を持って川へ行ったり、校長先生が授業に来たりと、本当に平和な日々だったと感じています。登下校の時には地域の人に挨拶をし、学年を問わず誰もが友達で、先生も全校生徒の名前を覚えていくくらい、アットホームな学校でした。

一昨年、タイムカプセルを開けるというイベントがあり参加しました。一年生になったばかりの頃、二十年後への私という題で作文を書いた記憶があります。あの頃は遠い未来のようにしか考えていなかった事なのに、あつという間に歳月が流れていました。出てきた品々に笑い合い、同級生や先生方と思い出話に花が咲きました。

そして、思い出がいっぱい詰まった長谷小学校が閉校となります。寂しいというのが正直な気持ちですが、私たちを見守ってくれていた学校に『ありがとう』と言いたいです。

長谷小学校の思い出

平成五年度卒 柴北上

若杉剛志

私が長谷小学校を卒業して十六年になります。そこではいろんな友達と出会い、いろんな事を学び、社会に出て働くようになりました。

一番の思い出は、小学五年生の頃。夏休みに遊びほうけていたため、「夏のとも」などの夏休みの宿題を新学期までに終えていなかったため、友達の大塚君と居残りをしていたときのことです。二人とも、勉強にも飽きてきたので、「なあ、とも君（大塚君）。玉衛先生今おらんし、帰ろうえ。」と、私が誘うと大塚君も、「そうやな、今のうちに帰ろうえ。」と、気持ちよくこたえてくれました。私たちがいた二階の教室の下の階で、先生は作業をしていました。ゆっくりと見つからないように腰をかがめて、ドキドキしながら通り抜けました。体育館のスロープの横の近道は、いつも昼休みにみんなで鬼ごっこをしていた秘密の抜け道です。あつという間に学校を飛び出し、「マジ怖かったあ、玉衛先生怒ると怖いけんあ。」「よくやったわ。」と、お互いの勇気を認め合った・・・という、エピソードがありました。

実はその後、黒松の公民館にさしかかったところで、玉衛先生が猛スピードで車で追いかけてきて、学校を無言で指差し、挙句走って学校に強制送還させられ、延々と宿題をさせられた、という当時の私には苦い経験、今となつてはとても懐かしい思い出があります。

ほとんど毎日野球の練習をしていたグラウンドも、みんなで相撲をとって遊んでいたあの砂場も、うんていも、プールも、鉄棒も・・・、今となつてはすべてが小さく、そしてなによりもあの時、そこにいたたくさん

仲間や先生方の笑顔は、かけがえない私の思い出です。

形あるものは風化し、やがてなくなります。しかし、私をここまで育ててくれた長谷小学校との思い出は、いつまでも風化しないように心にしっかりと刻み込んで、未来を生きていこうと思います。

野球部の思い出

平成六年度卒 柴北下

武藤 晃典

二〇〇九年九月十四日、イチローがメジャーリーグ史上初の九年連続二〇〇本安打を達成した。その姿は、私に一九九四年シーズン初の二〇〇本安打を達成した時の興奮を思い起こさせた。その時の光景は今でも覚えている。ライト線へ抜ける、痛烈な二塁打。二塁上で観客から祝福を受けるイチロー。その姿は今でも色あせることはない。当時私は十二歳。野球小僧で、日が沈むまで仲間と白球を追いかけた。

当時の練習場所といえば、小学校のグラウンドのみで、野球つばいものといえばバックネットのみ。ファールグラウンドには遊具が並び、セカンドベースの後方に立ちほだかる体育館の柱、外野の大部分を占める体育館、レフトとセンターの区別がつかない程狭い左中間、ライトの定位置は幼稚園の砂場の中といったひどいものだった。それでも、小学校四年から野球部に入部し同級生九人で努力した結果、県大会まであと一歩のところまで勝ち進み、最後は決勝でサヨナラ負けし、みんなで悔し涙を流したの思い出。ずば抜けた選手がいるわけではなかったが、みんな野球が好

きで、野球を本当に楽しんでいた結果だと思う。今思えば、あの環境の中でよくあそこまで勝ち進んだと思う。

野球がすべてだった小学校時代、野球をする上では最高の環境ではなかったかもしれない。しかし、教育の面では、これ以上ない環境の中で学べた事は、本当に幸せだった。大自然の中、野山に囲まれ、祖父、父も学んだこの学舎がなくなってしまふのは残念だが、これも時代の流れなのかもしれない。しかし、この長谷小学校の思い出は、長谷の地で育った人々の胸に生き続けるだろう。



長谷小学校の思い出

平成七年度卒 柴北下

後藤 淳

「小学生の頃は・・・」と考えると、グラウンドや近くの川、学校裏の畑など、教室の中よりは校舎の外にいるときのことを思い出します。

一日の始まりは友達と朝の校庭で鬼ごっこやドッジボールなどをしていました。少しでも長く遊べるように走って登校して、朝礼ギリギリまで遊んで、汗だけで一時間目の授業を受けていました。

授業でも、絵を描きに学校周辺の畑やお寺や山へ行ったり、川に泳ぎに行ったりしたのを覚えています。学校へ戻ると、担任の先生にそのとき感じたことを詩や作文に書くように言われて、作文が苦手な私は苦労しました。今でも文章を書くのは苦手ですが、この頃たくさん詩や作文を書いたおかげで、今このような文章を書くことができているのだと思います。

また、小学校の頃の恩師とお会いした際、弁当の話をして当時を思い出しました。先生が四時間目の授業を早めに切り上げてくださり、近くの川原や校庭の桜の木の下、校舎の屋上などで弁当を食べました。何の話をしたのかよく思い出せませんが、とても楽しかったことと、友達や先生の顔、そしてそのとき食べた弁当のおかずは今でも思い出せます。

今でも帰省した際に時々小学校へ行ってみることがあります。私が卒業してからは校舎も変わっていないので、当時のことがより鮮明に思い出されます。そこへ通う児童がいなくなるのは寂しいですが、その頃の元気をもらいにこれからも時々立ち寄りさせていただこうと思います。

長谷小学校の思い出

平成八年度卒 高津原

山田 浩子(旧姓 清松)

私の小学校での思い出は、大きく二つありますが、一つ目は努力遠足です。遠足は年に三回あったのですが、特に心に残っている遠足がこの遠足です。その中でもやはり長谷ならではの三ノ岳に登ったことです。毎日の登下校で歩くことには慣れていたので、やはり長い道のり・長い登り坂はきつかったことを覚えています。しかし、到着してから行う宝探しや大なわとびなどのレクリエーションは、いつもあまり係わることはない他学年の人とも交流することができて楽しかったです。そして仲の良い友達と外で食べるお弁当はとておいしかったです。今は長谷を離れて暮らしている為、車で移動することが多く、自分の足で歩くことも減っています。小学生時代の遠足や登下校のことをふり返してみると、自然とふれ合い、長い距離を歩くということもなつかしく思います。

二つ目は、秋に行われる運動会です。生徒や先生に加え、地域の方々と交えての運動会だったので、自分の家族や地域の人達だけでなく見に来られている人はみんな生徒のことを精一杯、応援してくれていました。その声援が嬉しく、とても励みになりました。少ない生徒数での運動会ではありましたが、地域が一体となり、長谷小学校ならではの運動会ができたと思います。

このような思い出深い長谷小学校が閉校してしまうと思うと悲しく、淋しい気持ちになってしまいます。しかし私達をのびのびと育ててくれた長谷小学校に感謝しながら、いつまでも思い出を大切にしていきたいと思えます。

僕と仲間と思い出と・・・

平成九年度卒 柴北下

佐藤綾祐

文集作成に僕が選ばれるとは思ってもみませんでした。僕自身の思い出をちよつとだけ書かせていただきます。

長谷小学校が閉校とは本当に残念でなりません。僕達昭和六十年生まれのクラスは平成十年三月に小学校を卒業していますが、その当時でさえクラスメイトは十三人で全校生徒は百人に満たなかったと思います。いつか、そういう日がくるだろうとは思っていましたが、やはり悲しいですね。

僕の家から長谷小学校まではちよつと遠くて、歩いて一時間はかかっていました。低学年の時などは近所のお兄さん、お姉さんに面倒を見てもらいながら学校まで行っていました。あの時のきれいなお姉さんの名前を思い出せないのが本当に残念です。帰り道なんかは、学校から出るときは多人数なのに、黒松や高津原の所で人が減って最後は僕ひとりになって寂しかったのを今でも思い出します。

小学校の時の一日や一年は、今より本当に長く感じて、とても楽しかったと思います。特に夏休みは学校のプールまで泳ぎに行ったり、天体観測のために学校に泊まったりといったイベントもありました。そして宿題は最後までやらない子でした。

小学校時代の経験というものは、その人の今後の人生における性格や判断に大きな影響を与えていると思います。僕はその経験が長谷小学校で、このクラスメイト達とできた事をとて幸せに思います。

最後に自分の事ばかり勢いだけで書いて申し訳ありませんでした。お世

話になった先生方、クラスメイトのみんな、この文集作成に関わる方、皆様本当に有難うございました。

八人の仲間達

平成十年度卒 長畑

武藤綾乃

一九九五年、私は長谷小学校に入学した。クラスメイトは八人。幼稚園からほぼ変わらないメンバーで私の小学校生活はスタートした。

毎朝六時に起きて、片道四キロの通学路を一時間かけて兄弟や幼馴染と通った。犬が離れていると泣きながら引き返し、車で送ってもらうこともあった。また、つくしを取ったり、祖母へのお土産とってスギの枝を拾って帰ることもあった。今考えると一時間の道のりも短く感じるほど、楽しい時間だった。

学校生活での思い出は、田舎の小学校ならではのものばかりだ。ドッジボールや縄跳び、水泳等に夢中になると、次の授業が始まっても遊び続けた。生活や体育の時間には、ビニール袋片手に裏山や川に行き、木の実や魚を取っては学校に戻っていた。夏のキャンプは、スイカ割りや天体観測、BBQなど楽しいことが盛り沢山で、夜は遊び疲れて、いつのまにか八人で一緒になって寝ていた。冬は「日本一周」と称して、グラウンドを走り、ご褒美として到着した地域の名物を先生がプレゼントしてくれた。早く北海道に到着したくて、休み時間になると揃って校庭へ行き走り続けた。

僕と仲間と思い出と・・・

平成九年度卒 柴北下

佐藤綾祐

文集作成に僕が選ばれるとは思ってもみませんでした。僕自身の思い出をちよつとだけ書かせていただきます。

長谷小学校が閉校とは本当に残念でなりません。僕達昭和六十年生まれのクラスは平成十年三月に小学校を卒業していますが、その当時でさえクラスメイトは十三人で全校生徒は百人に満たなかったと思います。いつか、そういう日がくるだろうとは思っていましたが、やはり悲しいですね。

僕の家から長谷小学校まではちよつと遠くて、歩いて一時間はかかっていました。低学年の時などは近所のお兄さん、お姉さんに面倒を見てもらいながら学校まで行っていました。あの時のきれいなお姉さんの名前を思い出せないのが本当に残念です。帰り道なんかは、学校から出るときは多人数なのに、黒松や高津原の所で人が減って最後は僕ひとりになって寂しかったのを今でも思い出します。

小学校の時の一日や一年は、今より本当に長く感じて、とても楽しかったと思います。特に夏休みは学校のプールまで泳ぎに行ったり、天体観測のために学校に泊まったりといったイベントもありました。そして宿題は最後までやらない子でした。

小学校時代の経験というものは、その人の今後の人生における性格や判断に大きな影響を与えていると思います。僕はその経験が長谷小学校で、このクラスメイト達とできた事をとても幸せに思います。

最後に自分の事ばかり勢いだけで書いて申し訳ありませんでした。お世

話になった先生方、クラスメイトのみんな、この文集作成に関わる方、皆様本当に有難うございました。

八人の仲間達

平成十年度卒 長畑

武藤綾乃

一九九五年、私は長谷小学校に入学した。クラスメイトは八人。幼稚園からほぼ変わらないメンバーで私の小学校生活はスタートした。

毎朝六時に起きて、片道四キロの通学路を一時間かけて兄弟や幼馴染と通った。犬が離れていると泣きながら引き返し、車で送ってもらうこともあった。また、つくしを取ったり、祖母へのお土産といつてスギの枝を拾って帰ることもあった。今考えると一時間の道のりも短く感じるほど、楽しい時間だった。

学校生活での思い出は、田舎の小学校ならではのものばかりだ。ドッジボールや縄跳び、水泳等に夢中になると、次の授業が始まって遊ぶこともなかった。生活や体育の時間には、ビニール袋片手に裏山や川に行き、木の実や魚を取っては学校に戻っていた。夏のキャンプは、スイカ割りや天体観測、BBQなど楽しいことが盛り沢山で、夜は遊び疲れて、いつのまにか八人で一緒になって寝ていた。冬は「日本一周」と称して、グラウンドを走り、ご褒美として到着した地域の名物を先生がプレゼントしてくれた。早く北海道に到着したくて、休み時間になると揃って校庭へ行き走り続けた。

私たちは人数が少なかったこともあり、常に一緒にいた。仲が良いね、と六年間で何度言われただろう。それほど八人は笑うときも一緒、怒られるときも一緒だった。

長谷小学校で過ごした六年間は毎日が楽しくて、ほんの一瞬だったような気がする。勉強以上に大切なものを沢山学び、貴重な経験を沢山した小学校生活。そんな思い出いっぱい、長谷小学校がなくなることは本当に悲しいが、かけがえのない思い出をこれからもずっと大切にしていきたい。ありがとう長谷小学校!!

常に仲間と挑戦

平成十一年度卒 高津原

安藤 美郷

小学校で過ごした時間は、長いようであつという間の六年間であつたように感じます。その貴重な六年間を長谷小学校で過ごせたことを幸せに感じています。

特に思い出深いのは六年生での一年間です。

「新しい一年を切り拓いていこう」これが私たち十三人の最上級生としての目標であり、この目標に向かって日々頑張っていました。少しでも良い行事や委員会活動にしたいと思う一方で、みんなをまとめることの難しさを感じたり様々な壁にぶつかつたりもしました。

しかし、そのような時も決して諦めず十三人で話し合い、より良い方向性を導き出していたことを覚えていきます。十三人で支えあい頑張つたから

こそ、長谷テーマパーク、ふるさと収穫祭、運動会などの成功を収めることが出来たのだと思います。そしてもう一つの切り拓くこととして記録への挑戦がありました。水泳や持久走で新記録を出すこと、計算や漢字での全員百点の取り組み、作文、長縄跳びでの三分連続跳び三四七回などたくさんの記録への挑戦をしました。簡単に達成できるものではなく、練習を重ね、互いに支えあい励ましあい成し遂げた記録です。難しいことをやり遂げみんなで歓声をあげた時の気持ちは忘れられません。

また、この他に思い出深いのは修学旅行です。長崎の原爆資料館や平和公園では戦争の恐ろしさと平和の尊さを感じました。みんなで長崎の夜景を見たこと、部屋でたくさんの話をしたこと、大浦天主堂やグラバー園に行つたことなど本当に思い出深い一泊二日になりました。

たくさんさんの思い出を長谷小学校での六年間で作りあげたので、母校がなくなってしまうことは本当に寂しいです。しかし、思い出はいつまでも私たちの心の中で生き続けるものであると思います。再び十三人で集まる機会があれば、たくさんさんの思い出話をしたいと思います。



思い出を大切に

平成十二年度卒 柴北上

羽田野 勝 登

長谷小学校が閉校になると聞いて、とても残念に思っています。

長谷幼稚園の三年間を入れると、九年間過ごした思い出深い学校です。他の学校に比べると狭いグラウンドでしたが、友達と下校時間まで遊んだことなどが思い出されます。

一番の思い出は、秋の収穫祭です。学校の裏にある畑で野菜を育て、それを使ってグループ毎に料理を作りました。

自分たちの力で育てた野菜で作る料理は格別で、買った野菜に比べ二倍も三倍もおいしく感じた記憶があります。食べ物を作る楽しさ、大変さを知ることができ、とても良い経験になりました。

今、大学生で一人暮らしをしています。料理することが苦にならないのは、その時の経験があるからかもしれません。

また、運動会やマラソン大会に頑張ったことも思い出です。

六年生の運動会では副団長になり、大きな旗を一生懸命振ったこと。人数は少なかったけど、放課後残って何回も何回も練習に励み、皆が一つになれた気がした充実感、負けてしまったけど、全力を出し切った達成感はずれられません。

マラソン大会の練習で、体育の時間の他に中休みや昼休みにもグラウンドを走り、誰よりも持久走が苦手だった僕が、みんなと並ぶくらいに走れたこと。

水泳は、二千メートル泳げるよう挑戦したけれど、最高記録は千九百メートルちょっとで少し目標に達せなかったこと。

それでも、担任の佐藤先生やクラスの仲間たちに励まされながら泳いだ千九百メートルは、僕にとつて、大変価値のある千九百メートルだったと、今になって感じています。

他にも、歓迎遠足や秋の努力遠足、特に努力遠足ではグループに分かれ問題を解きながら歩いたことや、レクリエーションで汗を流し大笑いしたこと、お弁当がとてもおいしかったことなど思い出は尽きることがありません。

全校生徒は百人以下、卒業する頃には五十人足らずの小さな小学校でしたが、それゆえに仲間意識が強く上級生や下級生で手を取り合つて一つの行事をやり遂げる力が発揮できたことなど、すばらしい出来事の連続でした。十一人の同級生は残念なことに一人転校して十人になってしまいました。長谷小学校で過ごした六年間は、それぞれ一人ひとりの一生の思い出として刻まれていることと思いますし、僕もこのような思い出をいつまでも大切にしていきたいと考えています。

長谷小学校の思い出

平成十三年度卒 栗ヶ畑

大塚 賢 人

今年の六月に二十歳になったばかりで、まだまだ社会人として・大人としては未熟者。そんな自分が今こうして、お世話になった幼稚園生活三年間と小学校生活六年間・たった七人で始まった九年間をととても懐しく思い出している。デキの悪かった自分が先生方にとってもお世話になったこ

とが今は走馬灯のようにグルグルと頭の中をまわっている。

自分の中では、低学年の時は担任の先生が途中コロコロ変わり、正直よく覚えていない。

高学年になり、今だからいえるが・・・登下校にキックボードに乗り、途中山の中に隠して帰りに見つけるとホッとし・・・黒松あたりの椎茸山に入り、かぶとむしの幼虫を見つけ帽子の中に入れて持ち帰り、家で育てるつもりがいつの間にか全滅していた。

栗ヶ畑は男子が多くて、帰りに川で泳いだり、田舎でしか、この恵まれた自然・地域でしか遊べない事は全てやり尽した気がする。

六年の修学旅行の前に腰を悪くしてコルセットをして行き、思うように動けなくて、情けなく・・・悔しかった事を今も忘れられない・・・最後の運動会もほとんどの競技に参加できなくて友達にも迷惑をかけてしまったなあ・・・そんな思い出が詰まった長谷小学校が閉校になると聞き、あまりに人数が少ないようだし仕方ない事だと思うが・・・残念だ。

今は毎朝、長谷小に元気に通う子供たちの姿を見ながら仕事に向かう自分がある。

また逢える日まで・・・この長谷小でずっといた「絆」をしつかりもち続け未来にむかって！

夢にむかって！これから先を生きたいこうなつ！と伝えたい。

長谷小学校ありがとう！お世話になりました。



少人数だったからこそ

平成十四年度卒 高津原

田島 かわり

私が通った長谷小学校の一番の思い出は、自然の中で生活した事です。野菜を植えたり田植えをしたりして自分たちで育てた物で収穫祭をして地域の人たちにふるまっても楽しかったのを覚えています。鶴見岳にのぼったのは小学生の私にとって本当に良く頑張ったなと思います。

ナイトハイキングで大分駅から犬飼まで歩いたのはすごく楽しかったです。毎日の登校もみんな仲よくより道しながら行ったのを覚えています。つくしやコスモス、クローバーにヒメジオンなどを採ったりしてたなとあります。

先生たちにも恵まれて充実した学校生活だったと感じます。大きな行事、小さな行事どんなことをする時も生徒は少人数でしたが、全員一生懸命にしていたと思います。収穫祭や運動会や発表会など、地域の人達のおかげで成功できたと思います。

朝は早く行って、中休みも昼休みも放課後も、みんなでドッジボールをしていたなと思います。朝の読書タイムが始まる前の自由時間にも低学年のクラスに行ったりして、本当にみんな仲がよかったなと思います。

図書館も大好きでした。先生がすごく優しくかみしばいを読んでもらったり、折り紙を折ったりしていました。ペランダから見るとグラウンドが好きでした。保健室にも別にケガをしているわけでも体調が悪いわけでもないのにみんなで行っていたなと思います。

大好きな長谷小学校が閉校になると知って本当に寂しいです。大きな学校でも多人数のいる学校でもなかったのですが、それで良かったなと思います。

ます。少人数だったから全員仲よく楽しく協力して家族みたいになってきたと感じます。たくさんの事がありすぎて語りつくせません。でも、全て良い大切な思い出です。長谷小学校に通うことができて心から良かったと思います。友達も先生も学校も思い出も忘れません。

校舎ありがとう。友達ありがとう。先生ありがとう。学校生活に関わったすべての人ありがとう。これからもずっとみんな大好きです。

かけがえのない六年間

平成十五年度卒 黒松

大塚 春樹

小学校生活を振り返ってみると、何事にも笑いを取りにいていた気がします。みんなを笑わせてその場の雰囲気明るくするのが楽しかったんだと思います。

一番の思い出は、団長として迎えた小六の運動会です。エール交換の間違えて自分の団を応援してしまつた事です。緊張していたので仕方ないですが、とても恥ずかしかつたのを覚えています。そのかわり、その事で笑いが取れたのは嬉しかったです。

他には、修学旅行が楽しかったです。犬飼小のみんなとともに初の県外外泊を体験しました。自主研修では、迷子になりかけながらも、友達と協力し観光名所を見てまわりました。夜になりホテルから見る長崎の夜景はとてもきれいでした。

長谷小学校で過した六年間、数多くの思い出ができました。毎日グラウ

ンドで遊んで、一生懸命、授業や行事に取り組んで、学校に行くことが楽しくて仕方ありませんでした。本当に充実した日々を送ることができました。

今の自分がいるのは長谷小学校で、自分の基礎を築き上げることができたからです。喜びや楽しさを分かち合うことも、嬉しさや悲しみで涙を流すことも、みんなでやりとげたときの達成感も、そして人の笑顔で元気になることも、すべて長谷小学校で学びました。

かけがえのない六年間を過すことができてとても感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

母校を思う

平成十六年度卒 高津原

下村 洋貴

閉校、その言葉を聞いた時、とても嫌な思いが心に残りました。人数は少なかったですが、楽しさだけはどの学校にも負ける気はしないうても明るい学校でした。今も思いだすだけで心の底から楽しかったと思える最高の場です。そうドキドキした一年生。幼稚園から一緒だった四人で長谷小学校一年がはじまりました。何もかも初めてでしたが、そこはさすが四人臨機応変にやり過ぎしてきました。

そして二年生。すこし生活にも慣れてきたのか元気がきたのか、いたずらまでする余裕までできました。

三年生では教室も二階に上がりました。そこで思いもかけない転校生が

やってきたのです。そうぼくたちの学年はずっと四人ではなかったのです。その名も坂上奈菜さんが入ってきて五人になりました。うるさかった教室はさらにうるさくなりました。

四年生では、中堅学年として勉強やスポーツにがんばる一面もできて、一回り成長を感じる一年でした。しかしまだまだいたずらもたえませんでした。

五年生。ここから学校全体の人数が少なくなり六年生と一緒にすることが多くなりました。五年生の時の担任には、作文がよほど好きなのでしようか、毎日書かされていました。もういいでしょうというくらい書き、ダメだしもくりました。新しいけん玉や百人一首、一輪車などいろんな事に挑戦しました。

六年生では、あいかわらず作文やけん玉、百人一首を覚えるなどに挑戦し上達していききました。最上級生での運動会や文化祭は、他の学年とは違い自分達が主役になり進めました。また野菜や花を育て、他の学校ではないような活動をしてよかったです。やんちゃぶりは変わりませんでした。が体は成長しました。

この作文を書く前に本年度最後の運動会に行ってきました。昔と変わらない長谷小学校の運動会だったと思います。人数が少ないながらも声が出ていて全力でやる。小さい所までこだわる長谷らしさがそこにはありました。その際、学校の中に入って見学をさせてもらいました。なつかしさがあり一緒に来ていた同級生と語りました。学校の一ヶ所、一ヶ所で立ち止まり思いがつかざる事はありませんでした。作文用紙に思い出はおさまりませんが、今思えば自慢の学校です。そして自慢の同級生五人です。ぼくは作文が苦手で、これだけの事しか書けません、書いていてとても楽しかったです。小学校の間、いろいろご協力して下さった先生方、地域の人

に感謝で一杯です。また書く事はいっぱいありますがここで終わらせていただきます。

安藤芳将、田島みのり、村上勇治、坂上奈菜、下村洋貴このメンバーでよかったです。六年間ありがとう、長谷小学校。

応援団長の思い出

平成十七年度卒 高津原

安藤 由香里

私の小学校の頃の思い出は、六年生の時に運動会の応援団長をしたことと、修学旅行です。

運動会では、団長が一番声を出さなければいけなかったので先生と何度もお腹から声を出すように練習しました。応援合戦ではダンスを覚えるのが大変でした。思うようにいかない時が多く、昼休みなどの時間を使って少しでもうまくなるように低学年の人たちにアドバイスをしたり、みんなの動きがそろわないところは何度も同じところを繰り返し返してできるようにするまでしました。私は小学校六年間最後の運動会での団長の大変さ、みんなをまとめる大切さを学びました。そして何より一番自分が成長できた時だと思いました。最初は勝ちたい、優勝したいとばかり思っていたけど、それよりも私はもっと大切なものを得られたと思います。みんながついてきてくれたこと、負けた時みんなと一緒に泣いたこと、そんなとき私は団長をしていて本当によかったなと思いました。

修学旅行の自主研修では、時間がなくてゆっくり回ることができなかつ

たけど、路面電車に初めて乗れたことや、グラバー園、二十六人聖人殉教地を見れてよかったです。次の日は佐賀の吉野ヶ里遺跡に行つてたて穴住居の中に入つてみたり、ほりの中を歩いたりしました。昔の暮らしなどがよく再現されていて、昔に戻つた感じがしました。二日間で友だちが増え、原爆資料館など初めて行くところばかりで、たくさん思い出ができてよかったです。

時々小学校に行つてみると、写真が残つていたり、私たちが委員会で使つていた物を今でも使つていたり、とても懐かしかったです。長谷小学校は閉校してしまうけど、四年後タイムカプセルを開けにまた来ます。

今までありがとう。

たった一人の卒業式

平成十八年度卒 柴北下

田 嶋 里 美

私は入学式も、卒業式も一人でした。初めて一年の教室に入った時はとても広くて少し寂しかったです。先生と一対一で勉強するのは緊張感があつて怒られる時はいつもビクビクしていたのを覚えています。ですが、上級生が優しくその緊張感もすぐにとれていきました。勉強も難しかったです、だんだんと分かつていきました。

長谷小学校は自然に囲まれています。見渡すかぎり山ばかりで、畑や田んぼ、川もあつてとても過ごしやすかったです。町の方では出来ない田植えや稲刈りは、長谷小だからこそ出来ることだと思えます。地域の人も

皆優しい人ばかりで、いろんな行事でお世話になりました。長谷小は百年以上も続く歴史ある学校です。私のおじいちゃん、お父さん、お兄ちゃん、お姉ちゃんも卒業生です。

でもその百年以上続く歴史に幕が降ろされてしまいます。現在全校生徒は十二人と少なくなつてしまいました。来年の三月には閉校たそうです。寂しい気持ちもありますが、仕方ない気持ちもあります。少子化が進み、やむをえない事です。

長谷小学校最後の運動会。卒業生も最後の運動会ということで、たくさんの方が訪れていました。私が一番印象に残っているのは、午前の部最後の全校生徒で踊つたダンスです。ダンスを見てみると、今までのなつかしい思い出がよみがえつてきて、涙が出ていました。

長谷小学校はたくさんの方が卒業しました。その卒業生は長谷小学校の卒業生だという事に誇りを持っていると思います。私もその中の一人です。私たちは長谷小のことを忘れません。いつまでも、一生忘れません。長い間、ありがとうございました。

一番の宝物

平成十九年度卒 黒松

二 宮 里 桜

私にとって長谷小学校は宝物です。

尊敬できる先生方に出会い、心から大切だと思える友達に出会い、長谷小学校の生徒として過ごした六年間。今でも、これから先もずっと誇りに思える時間でした。

先生と生徒が一丸となって行われる長谷小学校の行事は、素晴らしいものでした。

七月に行われるサマーフェスティバルでは、プールで遊んだり、スイカ割りをしたり、自分で作ったお店で夜市を開いたりして遊びました。そして何よりも、自分で作った晩ご飯をみんなと一緒に食べる時というのはとても楽しくて、一人じゃないってことを感じさせてくれました。

運動会では生徒だけでなく、お父さんやお母さん、地域の皆さん方も一緒に盛上げてくれました。生徒は一人ひとりが優勝を目指し、一生懸命声を出し、協力し合い、最後まで走り抜きました。

秋には長谷文化祭も開かれ、地域の方々に学校で勉強したことや、合奏などを発表しました。合奏は、本番に向けて朝早く登校して練習したのを覚えていきます。

自分達が時間をかけて考えたものや、みんなと協力して作り上げたものを見て下さった地域の方からの拍手は、とても温かいものがありました。

両親や先生方に愛され、そして何より地域の皆さんに温かく見守られていた長谷小学校が閉校となってしまふのは残念で、とても淋しいことです。しかし、六年間学んだ長谷小学校は、私にとって誇れる母校であると

ともに、心の中には長谷小での思い出がいつまでも残り続けていくことでしょう。

